

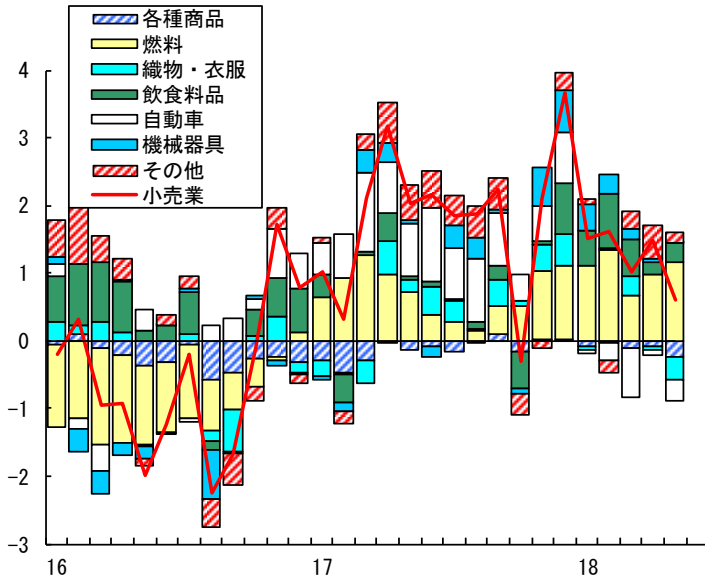
テーマ：小売業販売額（2018年5月）

～天候不順もあり、5月の消費は低調。4-5月平均では持ち直し～

発表日：2018年6月28日（木）

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528

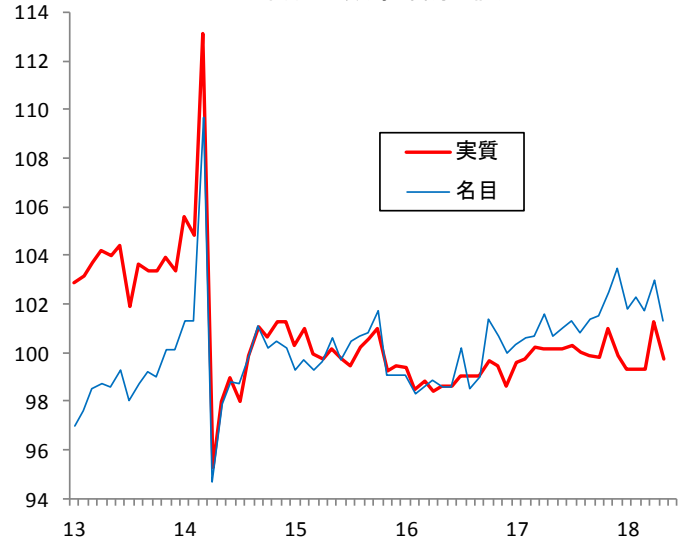
小売業販売額（前年比、%）



(出所)経済産業省「商業動態統計」

(15年=100)

小売業販売額(季節調整値)



(出所)経済産業省「商業動態統計」

(注)実質化及び実質値の季節調整は第一生命経済研究所

○5月の財消費は低調

経済産業省から公表された5月の小売業販売額は前年比+0.6%と、市場予想（+1.2%、当社予想：+0.9%）を下回った。季節調整済み前月比でも▲1.7%と比較的大きな減少となっている。業種別（季節調整値）でも、燃料小売業を除いて前月比マイナスである。その燃料小売業の増加ももっぱらガソリン価格上昇によるものであり、5月は全般的に落ち込みがみられている。

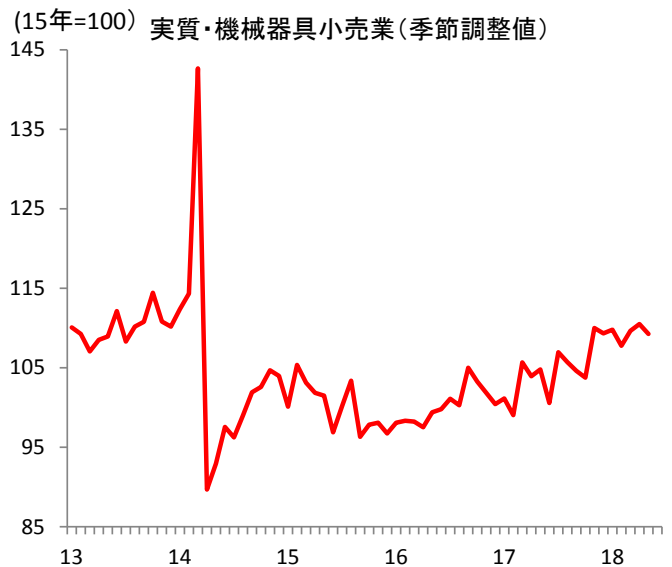
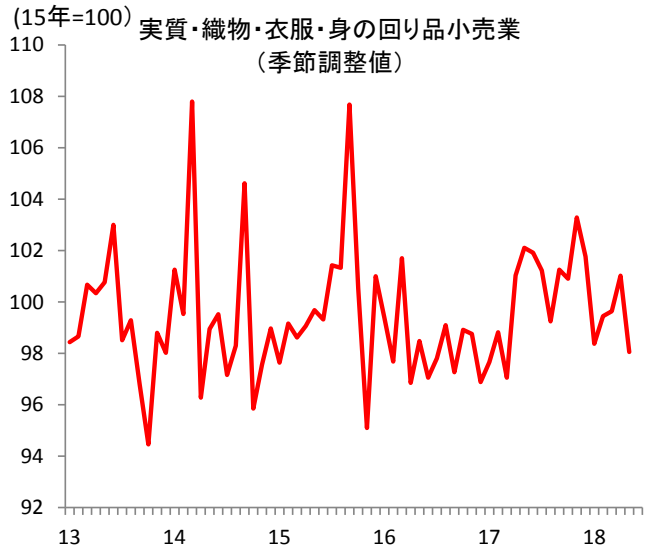
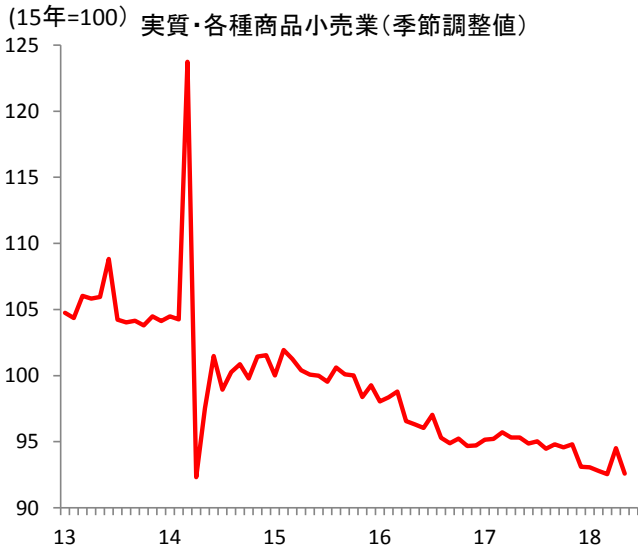
また、価格変動の影響を考慮した実質値（実質化と季節調整は筆者）でも前月比▲1.5%（4月：+2.0%）と減少している。全ての業種で減少しているが、特に、百貨店等が含まれる各種商品小売業（前月比▲2.0%）と、織物・衣服・身の回り品小売業（前月比▲2.9%）の落ち込みが大きい。5月は雨が多く、特に月上旬の降水量は非常に多かった。こうした天候不順による外出手控えに加え、月上旬は昨年と比べて気温が低かったことも、夏物衣料の販売には痛手となった。このように、かき入れ時となるGW期間中に雨と気温の低下が重なったことで、主力商品である衣料品の販売が大きく下押しされたようだ。また、衣料品については、4月が好天と気温の上昇に恵まれたことで、夏物衣料の購入前倒しが生じていたことの反動が出たことも、5月の下振れに影響しているものと思われる。

なお、小売業販売額の対象は財のみであり、サービス消費は含まれない。ただ、5月の降水量の多さを踏まえると、サービス消費についても弱い結果になる可能性が高そうだ。天候不順による外出手控えと4月の消費が強かった反動から、5月の個人消費は低調に推移したとの評価が妥当と思われる。

○4-6月期の消費は持ち直しを予想

このように5月の小売業販売額は悪化となったが、4-5月平均でみると1-3月期の水準を1.2%Pt 上回

っている（実質、季節調整値）。4月の大幅増加の貯金が効く形で、4-5月を均してみればプラスを維持する形である。5月の結果は確かに弱いだが、4-6月期の消費が下を向いているという評価にまでは至らない。1-3月期の個人消費下押し要因となった野菜価格の高騰が既に解消されていることが、4-6月期の消費押し上げ要因になっているものと思われる。5月分の悪化により、4月分公表時にみられた過大な期待こそ修正されたが、4-6月期を均してみれば個人消費は前期比で持ち直しが見込めるとい見方を変更する必要はないだろう。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」
 (注) 実質化及び実質値の季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。